

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600368		
法人名	伊勢温泉観光株式会社		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	三重県津市戸木町4113-11		
自己評価作成日	平成22年9月10日	評価結果市町村提出日	平成22年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470600368&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成22年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりは、自然豊かな環境に恵まれ鳥のさえずりが聞こえ、清らかな風が吹く心地よい広大な敷地内に在り、利用者様はホームの周りにある遊歩道の散策を日課として楽しく過ごして頂いています。このすばらし環境のもと、「和顔愛語」の理念で接するよう日々努力をしています。利用者様、ご家族様が安心して生活ができるよう毎年「事業計画書」を作成しその実現に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

私有地であるバリアフリーの遊歩道の途中に、今年パーベキューハウスが完成した。畑もあり、今後はその場を活用して、利用者や地域住民との交流を図っていく意向である。建物は1階が事務所で、2階～4階が居室となっている。居室や居間には、木の自然素材で内装がされており、安らぎやぬくもりが感じられる。各居室には、トイレと洗面台が完備され、プライベートを大切に工夫もされている。職員は、理念をもとに優しい笑顔とやわらかい声かけで、利用者の思いを引き出し、実現できるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「和顔愛語」を実践できるよう取り組んでいる。利用者様は近くに住んでおられた方なので話もローカルな話題になり、会話が弾むので気持ちが落ち着き不安を和らげるようにしている。	開設当初からの法人の理念をもとに、優しい笑顔と、やわらかい声かけでケアを実践している。理念は詰所の一番目立つ所に貼り、全職員で共有している。今後は、地域密着型サービスの理念についても検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事に招いたりして交流をしている。	事業所の夏祭りには地域の人を招き踊りに参加してもらったり、久居中学校の体験学習を受け入れている。また、今後はバーベキューハウスを利用して、地域交流の場にしていく考えである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で困って見える高齢者の方がみえたら、他の事業所さんとも連携を図り、対応するよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご支援、ご理解を得られるよう取り組んでいる。	今年は3月、6月に開催している。参加メンバーは自治会の会長、各組長、会計の役員等4名が参加、6月には地域包括センターの職員も参加して、意見交換が行われた。	2カ月毎の定期的な運営推進会議を開催し、地域密着型サービスとしての役割を果たすために、地域・行政との連携や協力を密に図っていく必要がある。今後は運営推進会議を活かして、その役割を積み重ねていかれることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて相談をし、指示をもらっている。	援護課との連携はあるが、介護保険担当者との連携はあまりない。困難ケースを通して、市の担当者顔なじみになった為、今後は何でも相談をしていく意向である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、鍵をかけてはいけないことを理解して取り組んでいる。	各階とも出入り口には階段があり、転倒防止の為にロックされ、暗証番号を入力しないと外に出れない状態である。職員の目が届く時間帯は開放しているが、今後は見守りを強化し、鍵をかけない工夫を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がおこらないよう注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご説明を行い、安心して入居していただけるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様と連携を図り、取り組んでいる。	家族からの要望はあまりないので、面会時や電話、手紙にて利用者の状況報告を行いながら、意見や提案を聞く機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	報連相会議を行い意見の反映に取り組んでいる。	お花見の行事で使用する小型バスを準備してもらったり、浴室の修理等職員からの意見や提案を聞く機会を設け、反映している。また、つぶやきノートがあり、職員のアイデアや意見が自由に書き込めるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き甲斐いが持てるよう、出来る限り取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ヘルパー2級などの資格習得に積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会を持ちサービスの質向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との面談を通じて、ご要望を確認し安心して生活が送れるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と連携を図り、取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用時点での支援について、ご本人、ご家族様と相談をしながら進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中でゆったりとした時間を作り、信頼関係が築けるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様のご協力がなければ、利用者様が満足した生活が送れないので、良好な関係が保てるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望される場所への外出支援、また気軽に知人等が訪問していただけるよう雰囲気作りに取り組んでいる。	利用者の「家に帰りたい」という気持ちを優先して、実現に向け家族に働きかけをしている。家族が外出に対する不安があれば、その気持ちも受け止め、安心して出掛けられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で職員が間に入り孤立されることがないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても関係がきれいなよう努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様に意思確認をし、実現できるように取り組んでいる。困難な方への支援が一方的にならないよう常に検討している。	利用者の思いや希望は、マンツーマンのケアの中で把握している。また、自己決定がし易くなるように声かけや選択肢の工夫等、意図的に関わっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、関係事業所さんと情報交換を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送りをを行い職員間で現状確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様のご意見を取り入れ、現状に沿ったプラン作成に努めている。	本人・家族の意向を基に作られた介護計画を、各職員が個々でモニタリングを行い、毎月のフロアー会議で検討し、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を作成している。気づいたところや様子を書き入れて実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る範囲でご希望に添えるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心、安全な生活ができるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に受診をお願いしている。受診時には職員も同席し指示をもらっている。	ほとんどの利用者は協力医療機関が、かかりつけ医となっており、往診をしてもらっている。眼科・皮膚科等の受診時には、家族に付き添ってもらっているが、家族が付き添えない場合は、職員が受診の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は配置していない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様と話し合いを持ちながら対応している。	重度化した場合について、入居時に重要事項説明書を用いて説明し、状態が変化した時に再度、話し合いを行っている。今までは医療処置が必要な場合が多く、看取りの経験はない。今後は協力医療機関・家族・地域の関係機関・職員等のチームでの支援体制に向けて検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応できるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携を図り訓練の指導、助言をいただいている。職員連絡網を作成し災害時に備えている。地域の方にもご協力をお願いしている。	年1回(5月)に消防署の指導を受けながら、避難・消火・通報訓練を利用者と共に実施している。スプリンクラーは、来年設置する予定である。	災害時の具体的な避難対策を地域住民・行政・職員と共に検討し、様々な設定での訓練を積み重ね、確実な避難誘導ができるように、切にお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護、プライバシーを尊重している。	居室のトイレ介助や個浴での入浴介助を行い、プライバシーを大切にするように工夫している。汚染時の声かけには、他の利用者に気づかれないように配慮して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様とコミュニケーションを図る中で、希望、要望を把握し支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いや、希望を把握しその人らしさを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望に応じて取り組んでいる。また必要に応じて身だしなみを整えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、配膳、後片付けをしてもらっている。	普段は委託業者の食材・献立であるが、月1回は利用者の希望を聞き、オリジナルメニューの日がある。また毎月のお誕生会では、みんなでケーキを食べるなど楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	今年は特に水分量には気をつけています。調理についてもやわらかく、食べやすく、塩分等の摂りすぎに気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけを行い、出来ない方には援助をしている。また、治療の必要な方には歯科医の往診をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトイレがあるので、いつでも自由に落ち着いて利用できるようになっている。また、必要に応じて声かけ、見守りで対応している。	排泄パターンに合わせて、トイレ誘導を支援している。また、オムツが必要な利用者には、リハビリパンツを使用し、トイレでの排泄が行いやすいようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については、運動や水分補給を確り摂ってもらい、便秘が続くようであれば医師の指示で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後に入浴をしていただくと決めてはありますが個々の希望や状況に応じて、その都度対応している。	入浴は週3回、午後2時から個浴で入ってもらっているが、希望があれば毎日入浴できる。午前中の希望に対しては、調理等で希望には添えていないが、夜間の入浴希望者には、清拭や足浴での支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なじみの寝具を持ち込んでいただいたり、静かな環境を提供し、よく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の状況について把握に努めている。またわからないことがあれば医師、薬剤師に指示をいただくようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の希望に応じて取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を日課とし、時々買い物や食事等に出かけている。ご家族との外出も支援している。	ひまわり畑やコスモス等の季節の花見に外出したり、個別での散歩や買い物、各フロアでの外食等の外出支援を行っている。年末年始やお盆等は、外出や外泊ができるように家族に働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額ではあるがお金を所持できる方はしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1階事務所にある電話やFaxを利用してもらっている。はがきも用意して代筆も行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が落ち着いて過ごしていただけるようぬくもりのある空間を作っている。	食堂兼居間には、季節を感じてもらえるように、利用者と共に作った作品や行事の写真が飾られている。木の自然素材で内装がされており、安らぎやぬくもりが感じられる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気兼ねなく自由に過ごしていただける様に取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に使っていただき、使い慣れたもの、好みの物を置いてもらっている。	8畳の居室はトイレ、洗面台、クローゼット、テレビ台、ベット、寝具が完備されており、テレビや椅子、思い出の写真等を持ち込み、居心地良く過ごせる工夫がされている。各居室ともベランダに出れるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状況に応じて、自立した生活が送れるように配慮している。安全対策も日頃から取り組んでいる。		